

向日市一般廃棄物処理基本計画 進捗状況

令和5年7月作成

1. 計画の趣旨

市が長期的・総合的視点に立って、循環型社会形成のための計画的なごみ及び生活排水の処理の推進を図るための基本方針として、発生から収集運搬、中間処理及び最終処分に至るまでの適正な処理を進めるために必要な基本事項を定めることを目的として策定。

○計画の期間

令和4年度を初年度とし、令和18年度を目標年度とする15年を計画期間

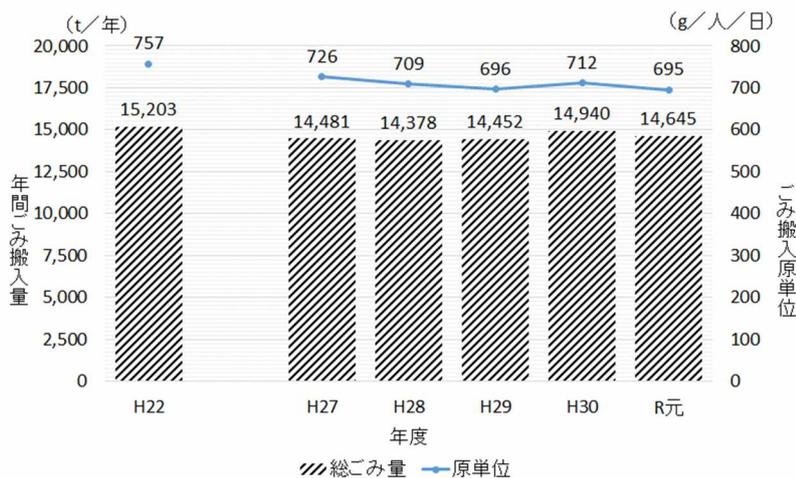
2. 計画策定時の現状と趣旨

○現状

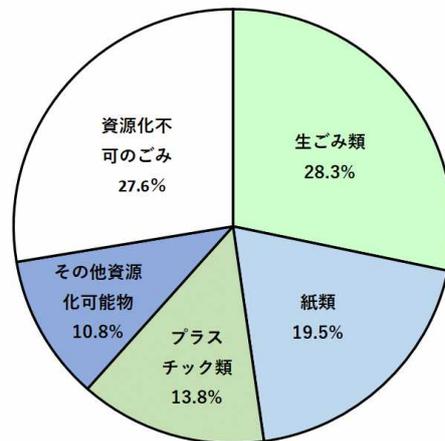
ごみ発生量は平成28年度まで減少傾向にありましたが、近年、ごみの減量が進んでいない状況にあります。なお、平成30年度については暴風災害等による災害ごみが発生した影響が見られます。

家庭系ごみを調査した結果、右図のとおり、新聞や段ボールなどの紙類やプラスチック類など資源化できるものが多く含まれていた

。



(図) ごみ総量の推移



(図) 家庭系可燃ごみの排出割合
(令和元年度ごみ組成分析結果より)

○課題

(1) 排出抑制

- ① ごみ量の削減
- ② 再生利用率の向上
- ③ 食品ロスの削減
- ④ 向日市廃棄物減量等推進審議会からの提言への対応

(2) 収集運搬

- ① 資源ごみの収集体制の検討
- ② 集団回収、拠点回収の拡大

3. 基本方針

本計画では、次の基本方針に基づき、一般廃棄物の3R 及び適正な処理を推進し、地球温暖化防止や海洋プラスチックごみの削減に取り組みます

基本方針
①市民、事業者、市の連携によるリデュース・リユースの推進 ②ごみの中から資源を回収し環境にやさしいまちづくり ③将来の環境を考えた環境負荷の少ない適正な処理 ④ルールとマナーがつくる美しく快適なまちづくり

4. 数値目標

○減量化目標

区分	単位	実績 (R元年度)	計画5年後 (R8年度)	計画10年後 (R13年度)	目標年次 (R18年度)	R元年度比
収集ごみ量 (収集ごみ量原単位)	g/人/日	519	438	438	426	約18%減
総排出ごみ量 (総排出ごみ量原単位)	t/年 (g/人/日)	14,645 (695)	13,077 (677)	13,077 (677)	12,562 (685)	約14%減

○再生利用率目標

区分	単位	実績 (R元年度)	計画5年後 (R8年度)	計画10年後 (R13年度)	目標年次 (R18年度)	R元年度比
再生利用率 (再生利用量)	% (t/年)	4.4 (649)	10.3 (1,390)	13.8 (1,805)	16.8 (2,104)	12.4 ポイント増

○最終処分量削減目標

区分	単位	実績 (R元年度)	計画5年後 (R8年度)	計画10年後 (R13年度)	目標年次 (R18年度)
最終処分量 (令和元年度比)	% (t/年)	- (2,392)	13.8 減 (2,063)	19.2 減 (1,932)	24.8 減 (1,798)

5. 数値目標達成に向け、新たに取り組んだ施策

(1) ごみの減量・分別の徹底

施策	古紙等集団回収助成金事業(令和4年7月)
ねらい	ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみのリサイクル意識の向上を目的に、古紙等の回収を実施する団体等に助成金を交付する事業です。
内容	助成金額 回収量(kg)×5円 対象団体 自治会 子ども会 PTA 老人クラブ 共同住宅の管理組合 社会福祉法人 地域住民で構成の営利を目的としない団体 対象品目 紙類(新聞紙、雑誌、ダンボール、紙パック、雑がみ) 布類(古繊維)
成果	活動団体数:21(令和5年6月末現在) 回収量:93,538kg(令和4年7月~12月分)
課題	目標登録団体数を40団体と設定。 現在21団体のため、引き続き、広報や説明会等で利用を促す。

施策	古紙等回収拠点(令和4年11月)
ねらい	ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみのリサイクル意識の向上を目的に、古紙等の回収する拠点を設置します。
内容	場 所 上植野浄水場東側(上植野町久我田17-1) 回収資源 新聞紙、チラシ、雑誌、雑がみ、段ボール、古着 出し方 資源項目毎のコンテナへ自身で投入 利用時間 午前8時30分から午後6時30分まで ※12月30日から1月3日までの間と荒天時は休み 運 営 日本紙業有限会社(京都市伏見区羽束師菱川町730-1)
成果	古紙回収については、市役所資源物回収ステーションと古紙等集団回収助成金事業にてリサイクルを推進しているところです。 市民の皆さまにご利用いただきやすいよう、新たに回収拠点を整備しました。 回収量:91.3t (令和4年11月~令和5年3月) ※現在、月平均25tの回収量
課題	引き続き、多くの方にご利用いただけるよう、認知度を高める必要があります。



施策	ごみ減量のしおり改訂(令和5年2月)
ねらい	平成29年に改訂した「ごみ減量のしおり」について、指定袋導入や拠点回収、ごみ分別アプリ、粗大ごみネット申込、古紙回収など最新の情報に更新し、冊子の配布をもって適正排出の意識醸成に繋がります。
内容	指定袋導入や拠点回収、ごみ分別アプリ、粗大ごみネット申込、古紙回収などの情報を掲載すると共に、審議会委員の意見でもある、ごみの行方(どのようにリサイクルされるのか)について記載し、より市民の皆さまに身近に感じていただき、ごみの減量、適正排出に取り組んでいただけるようにします。 配布方法は、全戸配布とします。
成果	全戸配布を実施。 現在も転入者に対して市民課窓口で配布中

(2) 分別の徹底

施策	ごみ分別アプリの配信(令和5年1月)
ねらい	ごみ分別アプリ(ごみスケ)を配信することで、素早くごみの分別の仕方が分かることを目的とします。また、地域を設定することで資源物の収集日や燃やすごみの出し忘れ防止通知を行うことで、正しくごみを排出いただくように促す。
内容	スマートフォン向けごみ分別アプリ(ごみスケ)を配信します。 ※スマホをお使いにならない方は市ホームページのごみ分別検索辞典を閲覧いただけます。
成果	アプリダウンロード数:2599件(令和5年5月末現在) ゴミの出し方・分け方カレンダー以外にも同様の案内が可能なツールを提供することで、より市民の皆さまに啓発ができる。 また、資源物ステーションの検索を可能とした。
課題	品目数の充実、プッシュ通知を利用した積極的な広報による啓発

(3) 粗大ごみ申込方法の拡大

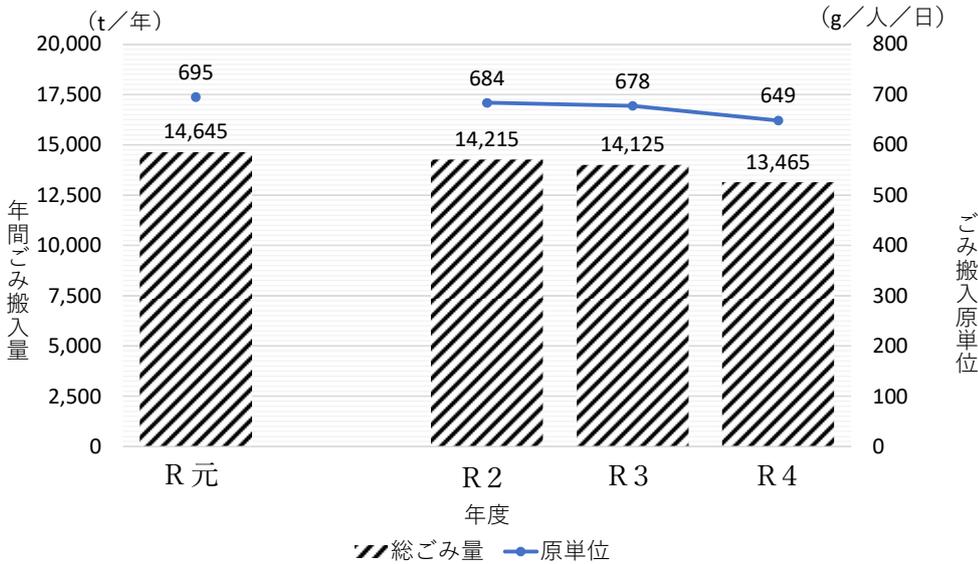
施策	粗大ごみ受付システム導入(令和5年1月)
ねらい	粗大ごみの収集受付について、24時間365日インターネット上で申し込めるシステムを導入することで、市民の皆様の利便性の向上を図るとともに、分別意識を高めていただくことで、ごみの適正排出を促進する。
内容	従来は環境政策課へ電話か窓口で粗大ごみの収集申込をする必要があり、受付時間が開庁時間内でした。このインターネット申込により、24時間365日申し込むことが可能になります。(※ごみ分別アプリとリンクします。)
成果	インターネットによる、受付可能件数を4割に設定(電話・窓口受付は6割) 現在、目標値の4割を受け付けている。 今後、状況を見て5割に引きあげる。
課題	まずは利用率を5割にまで引き上げるため、広報に努める。

6. 進捗状況

(1) 計画策定後のごみ総量と減量化目標の推移

令和4年3月に策定の「向日市一般廃棄物処理基本計画」に掲げた取組施策を実施した結果、令和4年度のごみ総量が前年度と比べ約4.7%減量、基準年度(R元)と比べ、約8.1%減量 特に指定ごみ袋制度の導入が適正排出、減量に寄与した。

(図) ごみ総量の推移



○減量化目標

区分	単位	基準年度 (R元年度)	実績 (R4年度)	計画5年後 (R8年度)	計画10年後 (R13年度)	目標年次 (R18年度)
収集ごみ量 (収集ごみ量原単位)	g/人/日	519	469	451	438	426
総排出ごみ量 (総排出ごみ量原単位)	t/年 (g/人/日)	14,645 (695)	13,465 (649)	13,464 (669)	13,077 (677)	12,562 (685)

○再生利用率目標

区分	単位	基準年度 (R元年度)	実績 (R4年度)	計画5年後 (R8年度)	計画10年後 (R13年度)	目標年次 (R18年度)
再生利用率	%	4.4	7.5	10.3	13.8	16.8
(再生利用量)	(t/年)	(649)	(1,007)	(1,390)	(1,805)	(2,104)

○最終処分量削減目標

区分	単位	基準年度 (R元年度)	実績 (R4年度)	計画5年後 (R8年度)	計画10年後 (R13年度)	目標年次 (R18年度)
最終処分量	%	-	-15.4	-13.8	-19.2	-24.8
(令和元年度比)	(t/年)	(2,392)	(2,023)	(2,063)	(1,932)	(1,798)

【参考】令和4年度と令和3年度 ごみ量比較

区 分		単位	R3年度	R4年度	前年度比(R4-R3)		
人 口		人	57,105	56,889	-216.0	-0.4%	
収 集	可燃ごみ	収集量	t/年	9473.1	8581.18	-891.9	-9.4%
		原単位	g/人/日	454.49	413.26	-41.2	-9.1%
	粗大ごみ	収集量	t/年	142.84	140.93	-1.9	-1.3%
		原単位	g/人/日	6.85	6.79	-0.1	-1.0%
	資源ごみ	収集量	t/年	920.67	907.85	-12.8	-1.4%
		原単位	g/人/日	44.17	43.72	-0.4	-1.0%
	有害ごみ	収集量	t/年	13.77	12.86	-0.9	-6.7%
		原単位	g/人/日	0.66	0.62	0.0	-6.3%
	側溝清掃 汚泥	収集量	t/年	50.98	87.35	36.4	71.3%
		原単位	g/人/日	2.45	4.21	1.8	72.0%
	計(①)	収集量	t/年	10,601	9,730	-871	-8.2%
		原単位	g/人/日	509	469	-40	-7.9%
直 接 搬 入	可燃ごみ	t/年	3,169.42	3,195.51	26.1	0.8%	
	粗大ごみ	t/年	228.47	206.33	-22.1	-9.7%	
	資源ごみ	t/年	10.27	5.15	-5.1	-49.9%	
	計(②)	t/年	3,408.16	3,406.99	-1.2	0.0%	
小計(①+②)		t/年	14,009.52	13,137.16	-872.4	-6.2%	
集団回収(③)		t/年	0.00	93.54	93.5	-	
拠点回収(④)		t/年	115.72	234.51	118.8	102.7%	
小 計(③+④)		t/年	115.72	328.05	212.3	183.5%	
総 計 (①+②+③+④)	ごみ総量	t/年	14,126	13,465	-661	-4.7%	
	原単位	g/人/日	678	649	-29	-4.2%	

(2) 令和4年度計画値に対する進捗

- ・総排出ごみ量、再生利用率(再生利用量)、最終処分量(令和元年度比)については、実績値が計画値を上回る結果となった。
- ・指定ごみ袋制度の他、古紙等集団回収助成金事業、古紙等回収拠点の整備、ごみ分別アプリの配信により、分別意識が高まり、再生利用量、再生利用率が高まった。
- ・ごみ総量が減少、再生利用率が高まったことにより、最終処分量が計画値より上回る減少幅となった。

R4年度	収集ごみ量 (収集ごみ量原単位)		総排出ごみ量 (総排出ごみ量原単位)		再生利用率 (再生利用量)		最終処分量 (令和元年度比)	
	g/人/日	t/年	g/人/日	t/年	%	t/年	%	t/年
計画値	464	13,693	663	958	7.0	958	-9.3	2,170
実績値	469	13,465	649	1,007	7.5	1,007	-15.4	2,023
達成率	98.9%		101.7%		105.1%			107.3%

【参考】

収集ごみ量・・・事業系を除くもやすごみ、粗大ごみ、資源ごみ、有害ごみ、側溝清掃汚泥の量

総排出ごみ量・・・事業系を含むもやすごみ、粗大ごみ、資源ごみ、有害ごみ、側溝清掃汚泥、資源ごみの集団(ごみ総量) 回収、拠点回収の量

再生利用量・・・集団回収、拠点回収、再生原材料(カン、びん、破碎鉄、破碎アルミ、ペットボトル、プラ容器)の量

再生利用率・・・再生利用量/総排出ごみ量

最終処分量・・・勝竜寺埋立、ごみ焼却残渣(大阪湾フェニックス)の量

7. 計画に掲げた3R促進に係る施策の取組状況

一般廃棄物処理基本計画(第6章)に掲げた目標を達成するための具体的な施策から本資料では、市の実施が完了している方策について記載します。

「継続」…引き続き実施・検討をするもの

「短期」…5年以内で実施・検討するもの

市の役割	達成に向けた方策	実施時期	取組状況	状況
3R促進のための 共通施策等	○令和4年2月から導入した指定ごみ袋について、 制度の定着のため啓発を実施します。	継続	説明会、チラシ全戸配布、街頭 PR	済
	○分別方法、出し方、収集日などがごみの品目で 検索できる新たなインターネットサービスを導入し ます。	短期	令和4年1月から導入開始	済
	○インターネットによる粗大ごみ回収受付システム を導入します。	短期	令和4年1月から導入開始	済
リサイクル (古紙)	○古紙回収を実施している業者や回収が可能 な品目について情報提供をします。	短期	市 HP に掲載	済
	○古紙の集団回収に対する助成金制度を実施 します。	短期	令和4年7月に制度開始	済
リサイクル (プラスチック)	○ペットボトルやプラスチックトレイなどを回収 しているスーパーなどの事業者の情報提供を します。	継続	回収事業者の情報を市 HP に掲載す る旨協力いただき、回収強化を図って いる。	済
	○事業者との連携のもと、ペットボトルからペ ットボトルへのリサイクルを推進します。	短期	事業所と協定を締結し、令和4年4月 からボトル to ボトル事業を展開	済
リサイクル (その他資源化)	○生ごみ堆肥化容器(コンポスト)の購入補 助等による生ごみ堆肥化の啓発を実施しま す。	継続	生ごみ堆肥化容器(コンポスト)の 購入補助を実施している	済